



『ぼくの武士道』

福島県会津若松市

会津日新館

小学5年生

山田大夢

「義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義・克己心」これは武士道の八つの教えです。

ぼくは、白虎剣士として、剣の道を学んでいます。そして、ぼくが特に大切にしている教えが「礼」「仁」「義」「勇」の四つの教えです。

「礼」は、礼儀作法のことだけではありません。つねに相手に心を持って接すること、つまり、悲しみも喜びも分け合い、相手を思いやる気持ちがあることです。心がなければ、「虚礼」といって、うその礼になってしまいます。ぼくも、この「心」が一番大切だと思います。

剣道では、この「礼」を大切にしています。試合の時はもちろんですが、けいこの始まりや終わりにも必ず「礼」をします。剣道の試合で勝つためには、強い心も必要です。でも、人を思いやる「礼」の心がなければ勝てないと思います。

「仁」は、愛や人を許す大きな心です。ぼくのクラスの先生は、よく「人を許す大きな心を持ちなさい。」と言います。「仁」がなくては「人」ではない。つまり、どんな時でも、思いやりや優しさは、人間が人間らしく生きるために必要なものだという教えです。

クラスの子が命れい口ちょうで友達を注意した時、先生が「今の言葉には思いやりの心はあったのか。注意するのはいいけど、思いやりの気持ちを持って注意しなきゃだめだぞ。」と言っていました。

ぼくも、少しの事でおこったりしないで、大きな心を持つ剣士になりたいです。

「義」は、正しい事をする、「武士道」の中で、もっとも大切な教えで、自分の損得ではなく、人のためにすることです。

ぼくは、まだほけつです。試合の時、仲間の選手のために、ほけつのぼくにしか出来ないことがあると思っています。そして、最高のほけつになろうといつもがんばっています。レギュラーになった時も、「義」の教えをわすれずにしていきたいです。

「勇」は、気力が強く、勇ましいことです。

勇気は、き険なことをすることではなくて、正しいことを行動にうつすのが本当の勇気です。

武士は、正しいことをするために、命をかけていました。ぼくは、命はかけられないけど、正しいことを「勇」の教えをもって実行していきたいです。

私たちは

会津白虎剣士としての誇りをもち

「ならぬことはならぬ」

という精神で

学業と剣道に精進し

根性を養うことを誓います

これは、けいこを始める前に、正さをして全員で大きな声を出して言う誓いのことばです。ぼくは、誓いのことばに武士道の精神がこめられていると思います。

ぼくが思う武士道は、正しいと思ったことをつらぬく精神だと思います。優しさや思いやりも忘れてはいけません。

武士道という言葉は聞いたことはありましたが、辞書を引いたり、本を読んだりして調べてみたら、言葉一つ一つはむずかしいけれど、ぼくたちの生活にどれも大事なものばかりでした。

心の中に、武士道の「義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義・克己心」の教えを持って、これからのけいこをがんばり、やさしくて、強い剣士になります。